

海況速報

平成11年度 第2号 (通算 No68)
平成11年 7月 1日
北海道立水産試験場

内容についての問い合わせは

中央水産試験場海洋環境部
(TEL 0135-23-4020)

5月下旬～6月上旬の海況

【日本海海域】 松前沖に強い潮目形成

本道西岸沖を北上する対馬暖流は、岩内湾沖から沿岸に沿って北上する分枝（100m層水温6℃以上のところ）と、沖合側を蛇行しながら北上する分枝（100m層4℃あるいは200m層2℃等温線に沿う部分）に分かれています。津軽海峡の西方には前回（4月）に引き続き暖水渦（中心：200m層8℃以上）があり、この渦の北東側、松前沿岸部の深度100m以浅に湧昇によると見られる冷水域が形成されています。ここの表面では水温が周囲より約3℃低く、松前沖に強い潮目が形成されているようです。

水温について見ると、北緯45度30分線では、累年平均(*1)に比べ、礼文島北西定点（東経140度53分）では200m層から表面まで全層で-0.8～-0.6℃、東経141度25分では、100m層で-1.0℃、50m層で+0.8℃、表面では-0.9℃となっています。北緯44度30分線では、累年平均に比べ、東経140度20分の200m層で-0.4℃、100m層で-0.5℃、50m層で+0.5℃、表面で-0.4℃となっています。東経141度15分以東の天売・焼尻島北側では昇温が早くなっていて、累年平均に比べ、100m層で+1.2℃、50m層で+1.2～+1.7℃（前年より2.3～3.4℃高い）、表面で-0.8～+0.2℃となっています。北緯43度30分線では、累年平均に比べ、石狩湾湾口部（東経141度00分）の50m層で+0.6℃、表面で+0.8℃、積丹岬北西沖定点（東経140度20分）では、200m層で+0.5℃、100m層で+1.1℃、50m層で+0.4℃、表面で+0.2℃となっています。瀬棚沖の最も岸寄りの定点（北緯42度30分、東経139度40分）では、累年平均に比べ、200m層で0.0℃、100m層で+1.5℃、50m層から表面で+0.6～+0.7℃となっています。津軽海峡西方暖水渦の北東側冷水域にある、松前西方で最も岸寄りの定点（北緯41度20分、東経140度00分）では、累年平均に比べ、200m層で+0.7℃、100m層で-1.7℃、50m層で-2.3℃、表面で-2.6℃（最近の10年間の中で最も低い）となっています。余市における5月中旬以降6月下旬までの沿岸水温（旬平均）は、平年値に比べ、5月中・下旬は-0.3～-0.1℃で「平年並み」でしたが、6月は上旬は+0.8℃（「やや高い」）、中旬は+0.3℃（「平年並み」）、下旬は+0.9℃（「やや高い」）と昇温が進んでいます。

【道東太平洋海域】 大型暖水塊が北上

前回（4月）三陸沖にあった大型の暖水塊（中心：200m層11℃以上）は北上し、北縁が北緯40度00分から30分の間まで達しました。この暖水塊から北東側に暖水域（たとえば50m層で6℃以上）が延びています。このため親潮（100m層水温5℃以下）は、道東沖をまっすぐ三陸方面に流れているほか、暖水域・暖水塊の東側を回って南下しています。また、北緯41度以北の海域に占める100m層2℃以下の沿岸親潮(*2)の面積は、前年同期（6月）の半分以下で、分布域も東経144度以東に限られていることから、オホーツク海からの沿岸親潮の補給量が少ないものと考えられます。

水温について見ると、道東沿岸の50m層で最も岸寄りとなる定点の水温は、根室半島沖（北緯43度05分、東経145度45分）で1.3℃（累年平均比0.0℃、前年比-0.3℃）、厚岸沖（北緯42度55分、東経145度00分）で2.8℃（累年平均比+1.0℃、前年比+0.9℃で最近の10年間の中で最も高い）、白糠沖（北緯42度45分、東経144度00分）で2.3℃（累年平均比+0.4℃、前年比0.0℃）となっています。

道南太平洋海域では、水温5℃以下の親潮の影響域は前回(4月)よりもさらに減り、浦河南西方観測線の200m層にだけ見られます。道東海域から襟裳岬を回って道南海域に流入する親潮の補給量は前回以降も少ないままのようです。また、津軽海峡から太平洋海域に流出してきた津軽暖流(たとえば100m層では水温8℃以上)は沿岸モード(*3)になっていて、青森県尻屋崎からすぐ岸沿いに三陸方面へ南下しています。

水温について見ると、浦河南西方観測線では、累年平均に比べ、浦河沿岸の定点(北緯42度10分)の100m層で+3.5℃、50m層で+4.9℃、表面で+2.8℃となっています。白老南方観測線では、累年平均に比べ、白老沿岸の定点(北緯42度20分)の200m層で+1.5℃、100m層で+1.8℃、50m層で+1.4℃、表面で+0.7℃となっています。恵山岬東側定点(北緯41度50分)では、累年平均に比べ、200m層で+1.3℃、100m層で+0.7℃、50m層で+1.7℃、表面で+0.6℃となっています。下北半島北側定点(北緯41度30分)では、累年平均に比べ、200m層で+0.2℃、100m層で-0.5℃、50m層で-0.8℃、表面で-0.6℃となっています。浦河沿岸定点の50m・100m層と白老沿岸定点の100m・200m層では、最近の10年間で最も水温が高くなっています。一方、下北半島北側定点の100m層では最近の10年間で最も水温が低くなっています。

50m層水温を見ると、7℃以上の範囲が宗谷海峡から知床岬先端まで延びていて、宗谷暖流は順調に流れています。50m層ではサロマ湖の北方北緯44度40分、オホーツク海冷水域の中に水温3℃以上を示す、小さな暖水塊のようなものが見えます。知床岬の付け根、東経144度50分では、オホーツク海冷水域が沿岸のすぐ近くまで張り出していて、そこでは宗谷暖流の幅が非常に狭くなっています。表面の冷水帯については、宗谷海峡から知床岬の付け根あたりまで断続的に形成されています。

水温について見ると、最も岸寄りの表面水温は、浜頓別沿岸部で12.5℃(累年平均比+2.7℃、前年比+1.6℃)、紋別沿岸部で10.9℃(累年平均比+2.0℃、前年比+2.4℃)、網走沿岸部で11.1℃(累年平均比+0.7℃、前年は観測ありません)、知床岬先端部で9.4℃(累年平均比+0.4℃、前年比+1.8℃)となっています。最も岸寄りの50m層水温は、浜頓別沖で8.9℃(累年平均比+1.3℃、前年比+2.1℃)、紋別沖で8.0℃(累年平均比+1.0℃、前年比+0.5℃)、網走沖で7.5℃(累年平均比+1.2℃、前年比+3.5℃)、知床岬先端沖で8.8℃(累年平均比+2.3℃、前年比+0.8℃)となっています。知床岬先端沖の50m層の水温は、最近の10年間の中で最も高い水温となっています。

資 料 [観測期間]

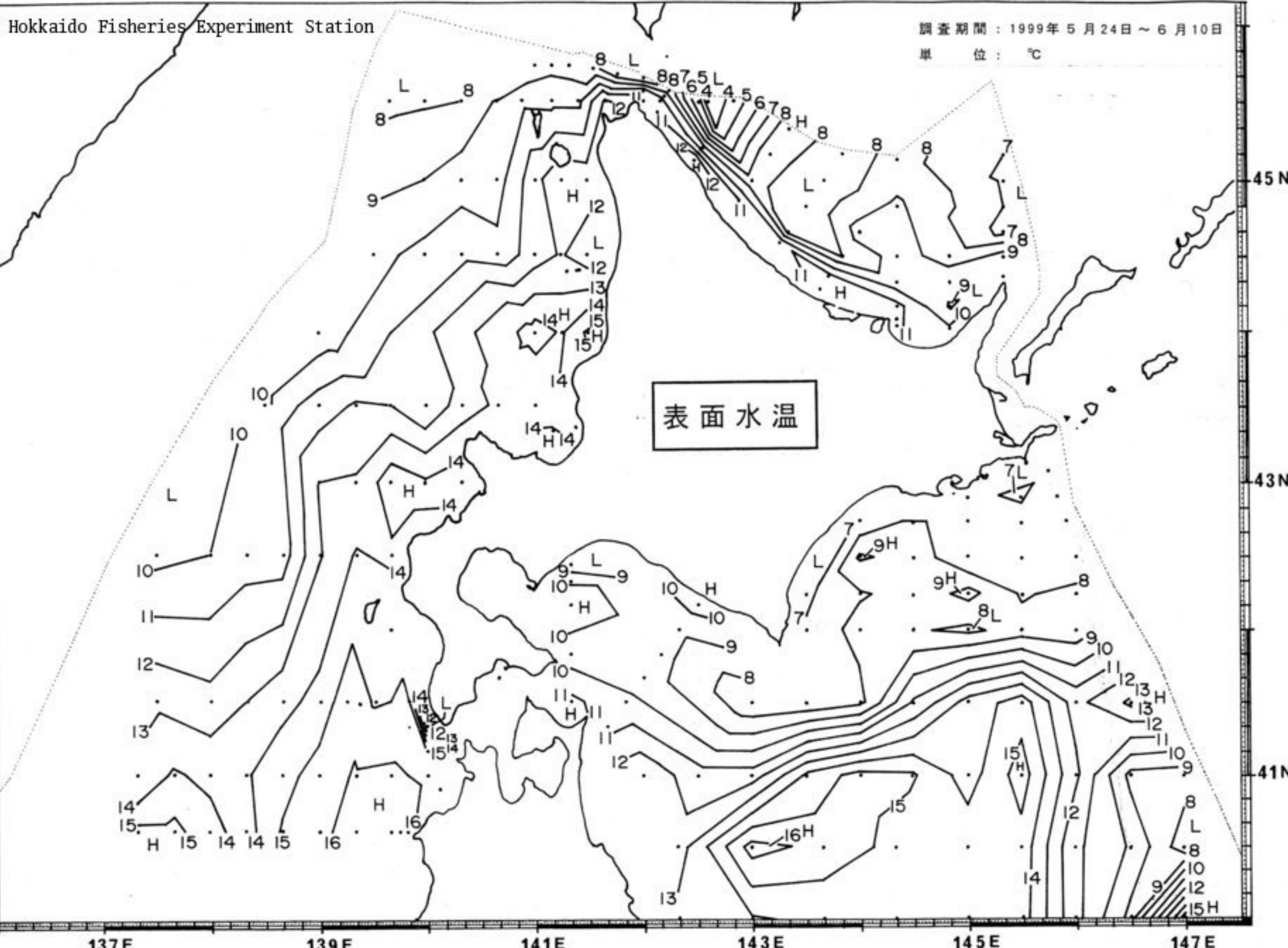
青森水試 (東奥丸)	平成11年6月5日～同6月6日	(東北日本海海域)
稚内・中央水試 (北洋丸)	平成11年6月1日～同6月2日	(道北日本海海域)
稚内・中央水試 (北洋丸)	平成11年6月2日～同6月3日	(オホーツク海海域)
稚内・網走水試 (北洋丸)	平成11年6月7日～同6月9日	(オホーツク海海域)
釧路水試 (北辰丸)	平成11年5月31日～同6月6日	(道東太平洋海域)
函館水試 (金星丸)	平成11年5月24日～同5月7日	(道南太平洋海域)
中央水試 (おやしお丸)	平成11年5月31日～同6月4日	(道西日本海海域)
中央水試 (おやしお丸)	平成11年6月7日～同6月10日	(道西日本海海域)

*1: 平成元(1989)年～平成10(1998)年までの平均値を使用しました。

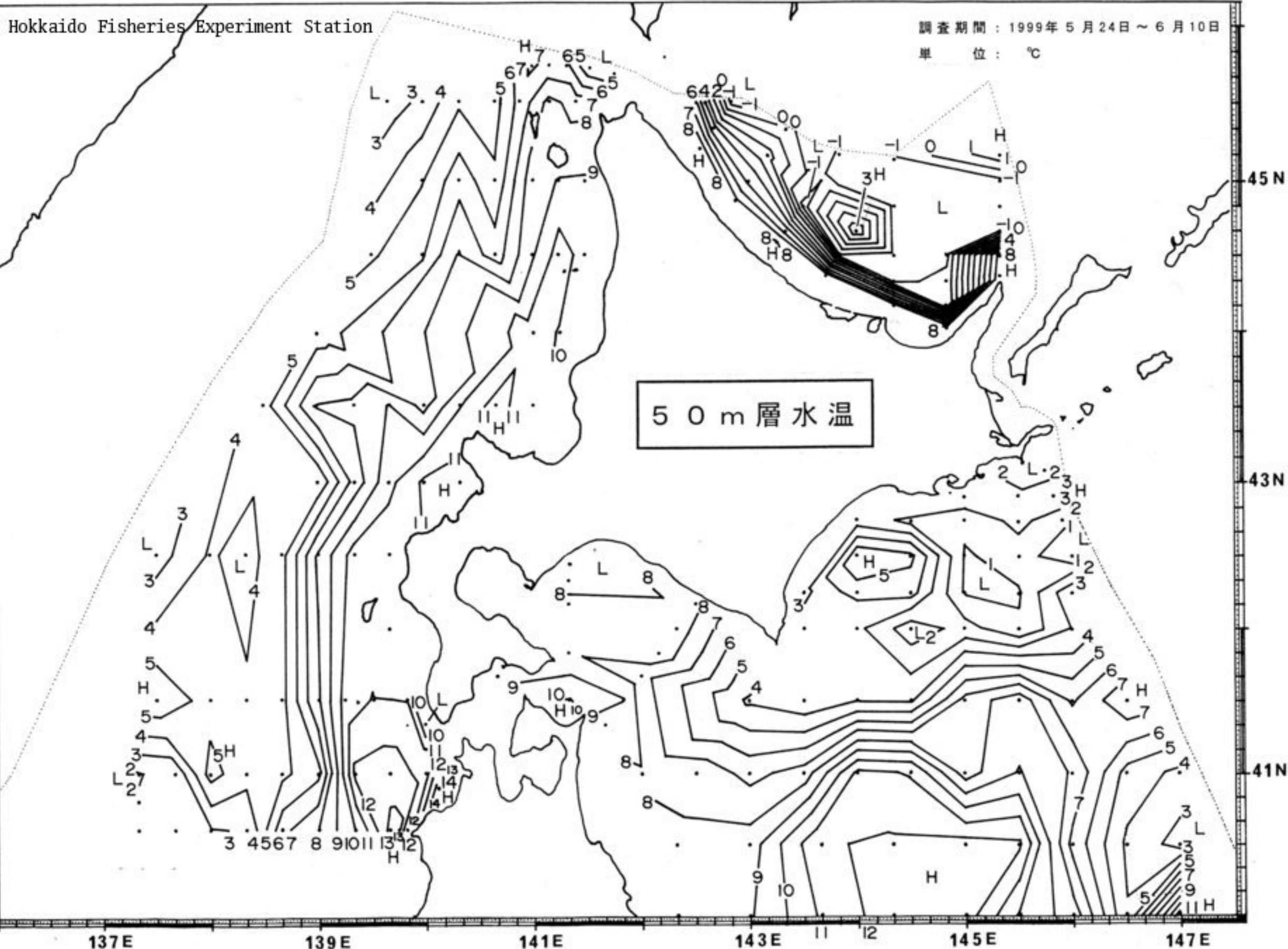
*2: オホーツク海の海水の融氷水を含む親潮として特に沿岸親潮という名前が付けられています。

*3: 津軽暖流が青森県尻屋崎からすぐ岸沿いに三陸方面へ南下している状態を、津軽暖流の「沿岸モード」と呼んでいます。

表面水温



50m層水温



137E

139E

141E

143E

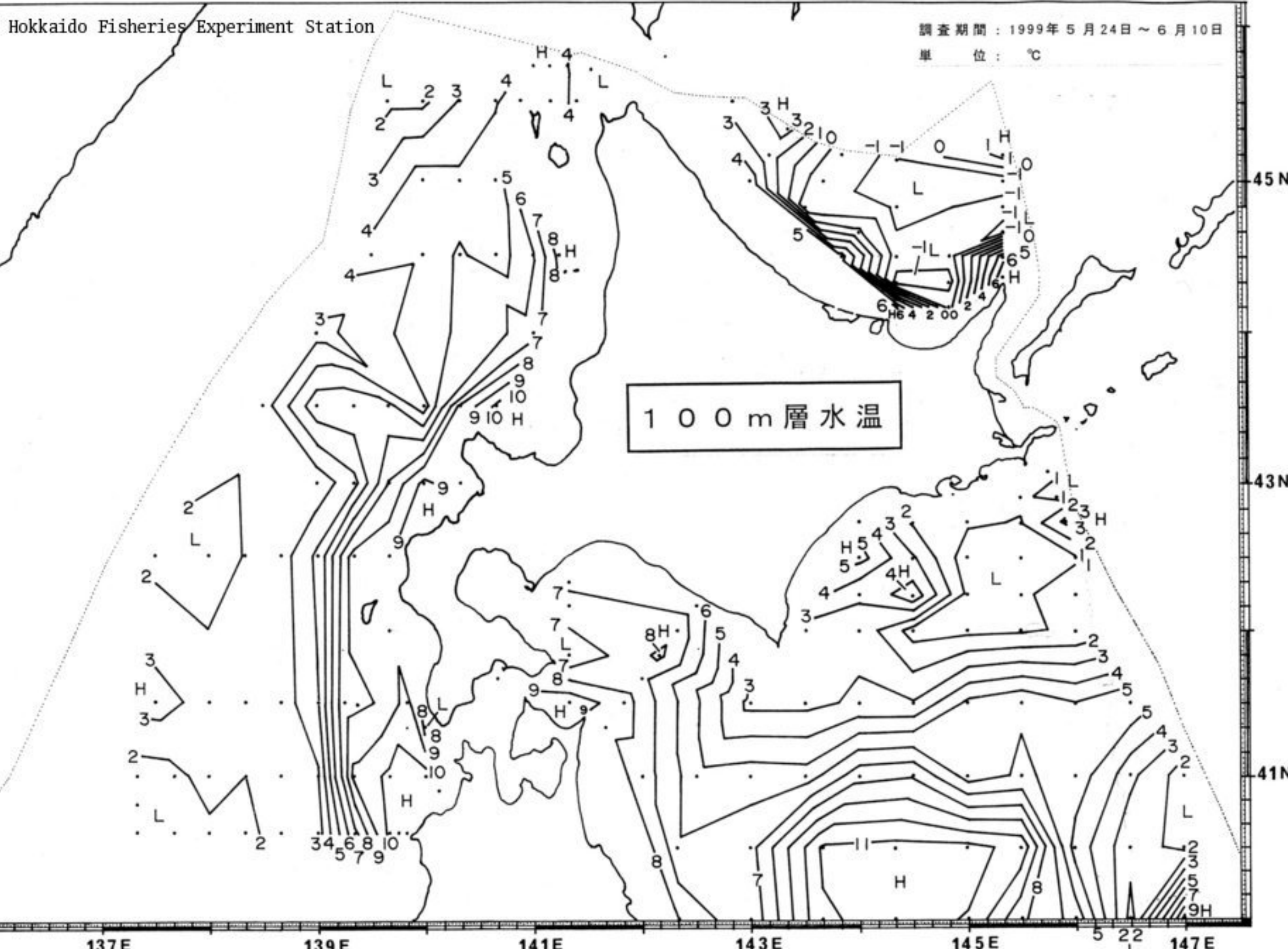
145E

147E

45N

43N

41N



100m層水温

137E

139E

141E

143E

145E

147E

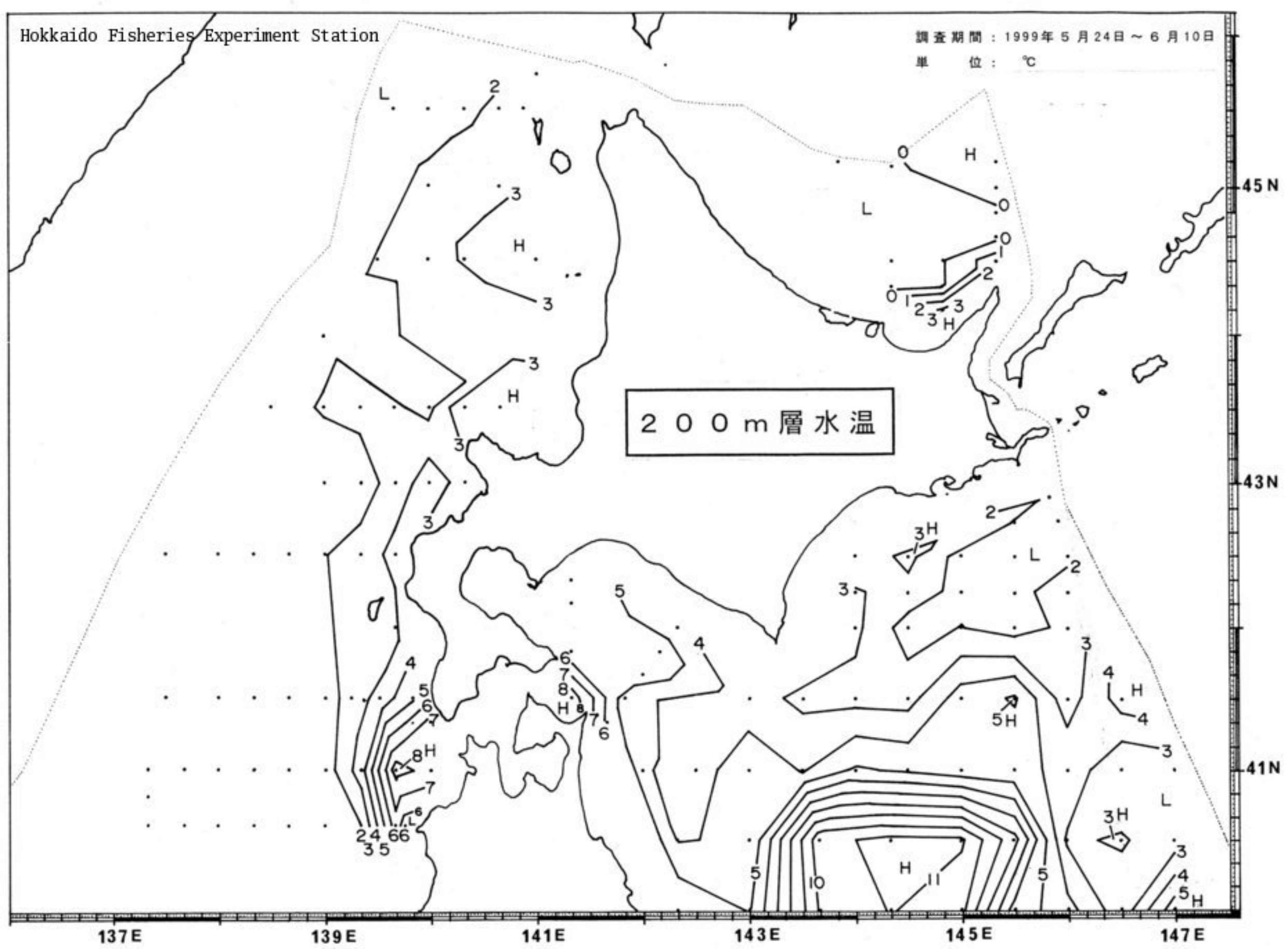
45N

43N

41N

5
22
L

200m層水温



137E

139E

141E

143E

145E

147E

45N

43N

41N